

単元名 春吉美術館の絵画の解説文を書こう

教材名 『鳥獣戯画』を読む, 「この絵, わたしはこう見る」

単元計画と指導構想 (全9時間)

春吉美術館の絵画の解説文を書いて, 絵のすばらしさを伝えよう。				
【第1次】(読む目的を明確にする段階)(第1時)		【第2次】(目的に応じて読む力を習得する段階)(第2～6時)		
「『鳥獣戯画』を読む」の一段落の絵を見て絵を説明する文を書き, 筆者の書きだしの文と比較し違いを考える。題名から絵を読むということに考え, 関心をもつ。	→	教材文『鳥獣戯画』を読むを読んで, 筆者のものの見方を学ぶ。		
		第2～3時 絵と文章を照らし合わせながら, 筆者のものの見方を捉え, 筆者が何を取り上げ, 何に着目したのか, 読み取る。	第4時 (本時) 筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫(感想・評価の言葉)の効果を読み取る。	第5時 『鳥獣戯画』絵巻物の別の場面の絵を見て, 解説文を書く。
		↓ 自分が選んだ場面で考える	↓ 自分の解説文に生かす	第6時 最後の段落に述べられた筆者の考えについて自分の考えをもって読む。
【第3次】(読む目的を達成する段階)(第7～9時)		春吉美術館の解説文を書いて絵のすばらしさを伝える。		
		第7～8時 自分が選んだ絵について読み取ったことや感じたことを300～400字程度の文章に書く。	→	第9時 友達の解説文を読み合い, 作品の見方や考え方, 表現のよさを見つけ, 交流する。
			→	(課外) 春吉美術館に絵と解説文を全校が見られるように展示する。
並行読書 (名画についての本を読んで, 自分の好きな絵画の解説文に生かす)				

単元目標

○ 絵と文章を照らし合わせながら事実と感想・意見などの関係を押さえ, 自分の考えを明確にしながら文章を読むことができる。(C読むこと ウ)

○ 事実と感想, 意見を区別するとともに, 学習したことを生かして, 絵の様子から読み取ったことを解説文を書くことができる。(B書くこと ウ)

単元について

(1) 児童について

物語文「やまなし」では, 「登場人物の相互関係や心情, 場面についての描写をとらえ, 優れた叙述について自分の考えをまとめる」ことの実現に適した本のショーウィンドウを言語活動に位置付けた。子ども達は, その中で, 文章を根拠に自分の考えをもち, 交流し合うという活動を行ってきた。優れた叙述について自分の考えをもつことができるようになったが, 筆者の意図を正確にとらえさせるまでには至っていない。

(2) 単元構成について

第1次において, 単元全体の見通しをもち, 意欲的に学習を進めることができるようにする。そのために, まず, 『鳥獣戯画』について興味・関心をもたせ, 解説の文章を書いてみたいという意欲を高めさせたい。
第2次においては, 教材文『鳥獣戯画』を読むを読み, 筆者の効果的な解説の仕方や「絵画を読む」観点を発見する活動を通して, 筆者の考えとその根拠を押さえ, 自分の考えを明確にしながら読む力を身に付けることができるようにする。筆者が何を取り上げ, 取り上げたものの何に着目し, どのような解説や評価をしているかを押さえ, 自分の表現にいかすようにする。
第3次においては, 第2次の学習を生かして, 自分が選んだ絵画を鑑賞し, 解説文を書く。ここでは, 第2次で習得した力を活用し, 各自でまとめる活動を行う。

(3) 指導について

本学級の児童は, 国宝の絵巻物について学ぶのは初めてである。そこで, 第1次で「鳥獣戯画」の全場面を見せることで興味・関心をもたせたい。そして, 教材文に紹介されている絵だけでなく, その他にも興味ある絵を見つけ, 何をこの絵は伝えたいのかと興味・関心を高めたい。そして, 「春吉美術館の絵画の解説文を書こう」という学習課題を作り, 学習計画を立てる。
第2次の教材文の読みにおいては, ものの見方やよさを伝えるための表現の工夫についての効果を考えさせていく。
第3次では, 自分が選んだ絵画に学んだことを生かして解説文を書かせる。完成した文について友だち同士で読み合い交流させる。読み合う際は, 表現の工夫が入っているのかを観点として相互評価していく。そして, 絵画に自作解説文を添えて春吉美術館に展示し, 全校児童に紹介する場を設定し, 満足感を味わわせるようにする。

単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「自分が選んだ好きな絵画の解説文を書く」ことを位置付けた。
ここで取り上げる解説文は, 絵の中の自分が着目したところ(着眼点)の評価や表現の工夫を通して, 絵のおもしろさやよさを伝えるものである。
そのためには, 根拠と考えたことを区別して書くとともに, 自分の考えを伝えるための効果的な表現の工夫が大切である。
したがって, 解説文を書くことで, 「目的に応じて, 文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり事実と感想, 意見などの関係を押さえ, 自分の考えを明確にしながら読んだりすること」(C読むこと ウ)と「事実と感想, 意見などを区別するとともに, 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」(B書くこと ウ)を取り上げて指導するものである。

本時目標

○ 筆者の表現の工夫を読み取り, 自分が選んだ場面の解説文を書くことに生かすことができる。

学習の展開 (4/9)

主な学習活動と内容	指導の留意点
1 本時学習について確認する。 めあて 筆者が何について評価しているのか筆者の表現の工夫について, グループで話し合い, 自分の選んだ場面に生かそう。	○ 本時のめあての確認をし, 見通しをもたせる。
2 筆者の表現の工夫を話し合う。 (1) 筆者の表現の工夫がわかるところを見つける。 (2) グループで交流する。 ・ 書き出し ・ 体言止め ・ 感想や評価の言葉 ・ 文末表現 ・ 文章構成 (3) 全体で交流する。 ・ 筆者の評価している言葉のよさ ・ 表現の工夫	○ 表現の工夫が分かるところに線を引かせる。 ○ 筆者の評価に対してどう思うかを考えさせ, それを友達と話し合わせることで, 自分の考えを深められるようにする。 ○ 筆者は, 絵を解説し, それに対して様々な言葉で評価したり, 表現の工夫をしてよさを伝えようとしていることをおさえる。
3 自分が選んだ場面に生かせそうな表現の工夫を使い短い文を書く。	○ 表現の工夫を入れて書く際, 評価語彙例を掲示し, 選んで書きまとめられるようにする。
4 本時のまとめをする。 (1) どんな表現の工夫を使ったかを発表する。 (2) 次時の予告を知る。	○ 友達の言葉のよさに気付かせる。 ○ 次時への意欲の継続発展を図る。